

プライマリ・ケアにおける ポリファーマシーへの取り組み

愛媛大学大学院医学系研究科
地域医療学講座

野村町

久万高瀬町立病院
船木 天児

愛媛大学医学部
先崎 健祐

西予市立野村病院
川本 龍一
二宮 大輔

演題名: プライマリ・ケアにおけるポリファーマシーへの取り組み
所 属: 愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座
名 前: 川本 龍一

筆頭発表者のCOI 開示

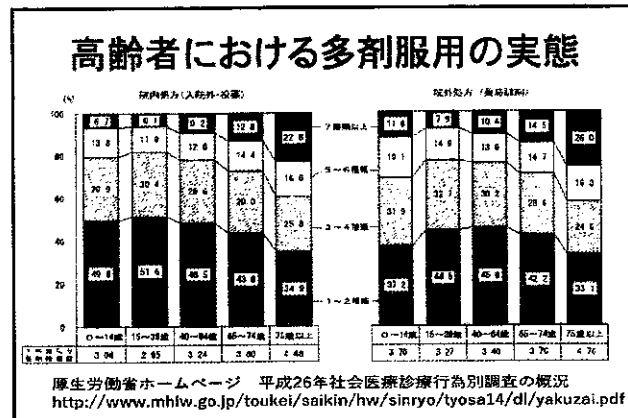
演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある 企業等はありません。

本日の内容

- 日本のポリファーマシーの現状
- 多剤服薬感と減薬期待感
- 症例提示
- 処方内容の検討
- アドヒアランスを高める

ポリファーマシーの背景と対策

- 少子・高齢社会における患者教育と合意
 - 生活習慣病の増加 ⇨ 予防医療、新薬開発
 - 医療の高度化、ニーズの多様化 ⇨ 幅広い対応、服薬調節
 - 医療の正しい利用法 ⇨ 服薬指導
 - 過剰な延命治療を控える選択 ⇨ 服薬調節、看取り教育
- 医療連携のシステム化
 - 医療・介護・福祉サービスの充実 ⇨ 在宅医療
 - 医療資源利用の最適化 ⇨ 多職種連携
 - 病状と病床機能 ⇨ 施設の機能分化
- 情報公開と共有
 - 医療・介護・福祉に関する情報(治療成績、費用、財務など)



日本の在宅ポリファーマシーの現状

Onda M, et al.
Identification and prevalence of adverse drug events caused by potentially inappropriate medication in homebound elderly patients: a retrospective study using a nationwide survey in Japan.
BMJ Open 2015; 5: e007581

P: 厚生労働省が送付したアンケートに回答のあった訪問薬局1,890カ所が訪問している
4,815人の患者(平均年齢:82.7歳)

T: 後ろ向き観察研究
E: 内服薬剤